

# CONTENTS COMBAT

2018.Feb.  
No.503

# 2

Cover Design  
Favorite Graphics Inc.  
Cover Photo  
Taku Kobayashi  
© WORLD PHOTO PRESS 2017  
※本文中の価格は消費税込みの  
総額表示です。



004 **【巻頭特集】**  
Scoop!! 東京マルイ×CAPCOM  
バイオハザード7 レジデント イービル  
アルバート.W.モデル02 トールハンマー 遂に完成!!

## THOR'S HAMMER

**【特集／2018予測】**

014 **2018世界情勢&ミリタリートレンド予測!**

## Military Trend Forecast 2018

- 016 菅原出が予測する! 世界の軍事情勢
- 020 菊池雅之が解説する! 自衛隊をめぐる動向
- 024 横田徹が語る! 中東情勢
- 026 JJが分析する! 迷彩トレンド・ミリタリー編
- 028 魔肖がセレクトする! 迷彩ストリートファッション
- 030 三等兵が聴く! サバゲーのトレンド
- 032 鮫島宗貴が体感する! 米市民と銃規制
- 034 石井健夫が考察する! 実銃のトレンド
- 036 KEN NOZAWAが紡ぐ! 近未来予測小説

**【特集／トイガン】**

040 TOKYO MARUI  
次世代電動ガン  
**AK47** ●Photos&Text by Taku

045 MULE  
DOUBLE BARREL DERRINGER &  
GM7.5 GOVERNMENT CUSTOM  
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

050 WESTERN ARMS  
V10ハイキャパシティ (WA 2018福袋モデル)  
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

054 WESTERN ARMS  
コルト・ナショナルマッチ/ブレ70 (ブルースチール・カスタム)  
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

057 WESTERN ARMS  
コルトM1911 (100周年記念モデル)  
●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

060 **【特集／ミリタリー】**  
HELIKON-TEX BUSHCRAFT LINE  
"SWAGMAN ROLL" SDVANCED PONCHO LINER  
●Photo&Text by TOMO HASEGAWA

066 ニッポンの力こぶ

070 第三管区警備救難競技大会

076 **Rising Thunder 2017**  
陸上自衛隊 ヤキマトレーニングセンター派米演習



072 米陸軍新制式採用ピストル  
**M17 Modular Handgun System**  
グロックにすぎなかったのか?  
●Real Gun Special Feature by Robert Bruce  
●Translation by Yu P.Aoke

080 ヨーロッパ最大 "シーネイ" ミリタリーショー見聞録  
**CINEY MILITARIA 2017**  
●Report & Photo : Sam Motojima

084 **サバゲ三等兵**  
●織本知之

088 **NEW GENERATION STYLER**  
●fujiwara

098 The Equipments of the U.S. Force  
**【現用米軍装備カタログ】**  
最新ヘルメット&アクセサリ特集

108 **トイガンニュース**  
108 東京マルイ スコーピオンMod.M  
109 東京マルイ M45A1 CQBピストル  
110 WA ガン・バッグ  
111 タナカ モーゼルKar98k

116 DJちゅうの妄想雑記ノート

117 **Militaria Roundup!**  
ヴェトナム戦争 アメリカ陸軍野戦装備Part.2

128 **PRESENT**

146 突撃!!ぴっちょりーな☆

150 SF (すこし不思議な) ミリタリー ●by DJちゅうとMCクミオ

154 兵装嗜癖 ●by fujiwara

156 ミリいじ技研

196 **Goods & Accessory**

200 **中田商店グッズ**

202 **S&Grafグッズ**

129 **GAME OVER THE TOP**

132 **US SHOOTING LIFE**

134 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

136 サバゲ三等兵APS部!

140 トイガンズ・ジャンクション

172 ヘンリー少年のミリ雑講義

173 コールターキー・レポート

174 アラフォーズ

176 編集長日誌

177 バックナンバーリスト

178 ミリタリーコレクション

180 レア・ミリタリー・コレクション

182 A STITCH IN TIME

183 ショットショー

184 シネマ放浪記

185 新作DVD紹介

186 蛙のゆびさき

188 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

191 読者プレゼント応募方法

192 編集後記





C O N T E N T S

- 01** **菅原 出が予測する! 世界情勢**  
「抑止力」を確保出来なければ、日本は厳しい現実を嫌というほど思知らされる
- 02** **横田 徹が語る! 中東情勢**  
ISが撤退することで、宗派・宗教間の対立が再び鮮明に
- 03** **菊池雅之が解説する! 自衛隊をめぐる動向**  
自衛隊の改編が、日本の島嶼防衛能力強化の必要性の高さを示している
- 04** **JJが分析する! 迷彩トレンド: ミリタリー編**  
混迷するアジア&中東の自然に対応できる迷彩が台頭か
- 05** **魔肖がセレクトする! 迷彩ストリートファッション**  
独自進化するハンティングカムフラージュ
- 06** **三等兵が聞く! サバゲートトレンド**  
マナーとホスピタリティの有無がフィールドの生き残りを左右する!?
- 07** **鮫島宗貴が体感する! 米市民と銃規制**  
大規模な銃規制は行われることはないだろう
- 08** **石井健夫が考察する! 実銃のトレンド**  
CQBスコープの世界に超バワーズームの時代が到来!?
- 09** **KEN NOZAWAが紡ぐ! 近未来予測小説**  
「ここで立ち上がらないと、日本人としての尊厳に関わる……」

MILITARY TREND FORECAST 2018

世界情勢&  
ミリタリートレンド予測!

“GUN & ミリタリーの総合専門誌”を標榜するコンバットマガジン。そのフィルターを通してみえてくる、世界の様々な事象。世界のミリタリー情勢から、銃規制、そして各種トレンド……。キーパーソンたちに聞きながら、深く、そして面白く、2018を予測してみました!



菊池雅之が解説する!

# 2018 自衛隊をめぐる動向

MASAYUKI KIKUCHI EXPLAINS: THE TREND OF JSDF

『日本は東西冷戦時代に匹敵する…、いやそれ以上の危機に瀕している』  
日本を代表するミリタリーライターが豊富な取材と知見をもとに解説する、自衛隊大改革!



## 総論 大改革を迎える自衛隊

2018年の自衛隊は、これまで以上に大きな変化を見せる年となる。北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射、中国による日本南西諸島部の領空・領海付近での示威行動、ロシアによる北方領土の軍事拠点化など、日本を取り巻く国際情勢が激しさを増しているからに他ならない。

特に陸上自衛隊は、創設以来初とも言える大改革を実施する。従来型の部隊配置や装備では、

もはや脅威に太刀打ちできないとの考えに至ったからだ。航空自衛隊は、南方重視にシフトし、戦闘能力と警戒監視能力を高める。海上自衛隊はミサイル防衛の強化を目指す。

間違いなく防衛省・自衛隊にとって、今年は大激動の年となる。それは日本が東西冷戦時代に匹敵する……、いやそれ以上の危機に瀕していることを表していることでもある。

### 陸自 指揮系統の抜本的見直し

陸上自衛隊は、これまで部隊の改編や新設を行ってきたが、抜本的改革に着手する。それが陸上総隊の創設である。これにより空自の航空総隊、海自の自衛艦隊と肩を並べる司令部機能を有する事になる。司令部は朝霞駐屯地（埼玉県）に出来る。そして新たに陸上総隊司令官というポストが新設される。

これまで、陸上幕僚長の下に、北部方面隊、東北方面隊、東部方面隊、中部方面隊、西部方面隊と5つの方面隊を置き、方面隊ごとに管轄地域を分け、日本列島を基盤的にくまなく防衛警備する方法をとってきた。

今度新設される陸上総隊は、この5つの方面隊を一元管理する司令部となる。これにより、俯瞰して各方面隊を見る事が出来る。米軍との調整も陸上総隊が行う事になり、日米共同による作戦展開をする際も効率よく行える。むしろ今までなかった方がおかしかったぐらいだ。

これに伴い、中央即応集団（CRF: Central Readiness Force）が廃止となる。この部隊は2007年3月に創設さ



水陸機動団の戦闘上陸大隊には水陸両用車AAVが配備され、随時乗員の教育が行われている。

れた。特殊作戦群、第1空挺団、第1ヘリコプター団、中央即応連隊、中央特殊武器防護隊、対特殊武器衛生隊、国際活動教育隊で構成されている。

基盤的に日本を守る方面隊に対し、中央即応集団は、管轄地域を持たず、戦力が必要とされる場所へと展開し増強していく。その活動範囲は国内にとどまらず、海外も含まれる。PKO活動や国際緊急援助活動では、まず先遣隊として現地に入り、その後、派遣される後続の各部隊と共に活動していく。発足間もなく、南スーダン、ジブチ、ハイチと海外派遣を経験。国内では、東日本大震災にて福島第一原子力発電所の事故対処を行った。もうもうと煙を上げる建屋に対し、冷却のため放水を行ったのもこの部隊だ。数々の輝かしい実績を持つが、わずか10年で、その歴史の幕を閉じる事になった。

ただし、中央即応集団司令部こそなくなるが、各部隊は生き残る。特殊作戦群と第1空挺団、第1ヘリコプター団、中央即応連隊は、新設される陸上総隊直轄部隊となる。そして中央特殊武器防護隊、対特殊武器衛生隊は東部方面隊へと移籍。国際活動教育隊は、統幕学校国際平和協力センターに組み込まれる。

陸上総隊直轄部隊として新設されるのが、日本版海兵隊こと、水陸機動団だ。およそ3000人で構成される計画だ。これに伴い西部方面隊の直轄部隊であった西部方面普通科連隊が廃止される。しかし、水陸機動団のほとんどの隊員が西部方面普通科連隊並びに西部方面隊各部隊の隊員となる。水陸機動団本部は、西部方面普通科連隊のあった相浦駐屯地（長崎県）に置かれる。

部隊の内訳は、水陸機動連隊×3、戦闘上陸大隊×2、特科大隊、偵察中隊、施設中隊、通信中隊、後方支援大隊、水陸機動教育隊となる予定だ。

戦闘上陸大隊には、水陸両用車AAV7が配備される。米カリフォルニア州にあるキャンプ・ペンデルトン海

兵隊基地にて、随時AAV7の乗員となる者への教育が行われている。操縦手となるのは機甲科から選ばれた隊員たちだ。陸自では今後戦車を削減していくので、その乗員がAAV7へと振り分けられている。

また、水陸機動団の機動展開をサポートするため、MV-22Bオスプレイの購入を決めた。平成28年度予算で、4機を取得済み。2019年から配備をしていく予定だ。ちなみに佐賀空港を新たに基地として使う計画だ。

2018年4月スタートに向けて、水陸機動団は、部隊化最終段階に入っている。この本が書店に並んでいる1月から2月にかけて、キャンプ・ペンデルトンで、日米共同訓練『アイアンフィスト』を実施している真っ最中。これが西部方面普通科連隊としての最後の訓練となる。

陸上総隊にはその他、これまで防衛大臣直轄部隊であった、システム通信団、中央情報隊も移籍してくる。システム通信団は、防衛省内に置かれていて、陸自通信部隊の中で最大規模の部隊だ。情報流出を防ぐセキュリティ全般を担当する通信保全監査隊、サイバーテロを防ぐ等システム防護隊などが内包されている。中央情報隊は、陸自を代表する情報・偵察（内偵）機関だ。基礎情報隊、地理情報隊、情報処理隊、現地情報隊（ヒューミント部隊）などが内包されている。

### 統合自衛隊 統合機動防衛力の行使へ

防衛省は、2013年12月17日に閣議決定された平成26年度以降に係る防衛計画の大綱にて（25大綱）、『統合機動防衛力』という新しい戦術を示した。

陸上自衛隊は、創設当時から掲げていた戦略である『基盤的防衛力』を時代と共に少しずつ変化させていった。

各方面隊には、師団や旅団、混成団といった戦闘部隊がぶら下がっていた。各師団・旅団・混成団の下にはさらに、普通科（歩兵）、機甲科（戦車）、特科（野砲）……と、各職種が編成されている。基本的に、日本領土に侵攻してきた敵に対し、師団・旅団・混成団単位で戦うのが創設時から東西冷戦時代までの基本戦術であった。

こうした考えに基づき、最も戦闘能力を高めたのが北部方面隊であった。目前には強大な軍勢力を誇るソ連がらみを利かしていた。ソ連陸軍が誇る大戦車軍団の着上陸に備えるため、北部方面隊には、打撃力の強い90式戦車を配置し、普通科や特科、施設科なども他の部隊に先駆けて装甲車化するなど、北方重視の“防衛基盤”を築き上げていった。

もし北部方面隊の各師団・旅団が、ソ連との戦いで損耗していった場合は、東北以南の各師団・旅団を北海道へと送る、そこで、それを演練するため、『北方機動演習』というのが行われていた。

1989年12月、核戦争の脅威すらあった東西冷戦が実にあっさりと終結する。そしてソ連は崩壊する。これに代わり、'90年代から2000年代に新しい脅威となったのが、テロとの戦いだ。

これに伴い、国内での対テロに力を入れるため、東京を含む首都圏の防衛警備を担当する第1師団を政経中核師団とした。都市部での戦闘に不向きとされる戦車や特科（大砲）部隊等を削減し、その代わりに普通科連隊を市街地戦闘に強い部隊へと改め、師団のNBCテロ対処能力も上げていく。第1師団に続き、大阪をはじめとした近畿地方の防衛警備を担当する第3師団も



2018年に創設される即応機動部隊の、目玉装備となるのが、この16式機動戦闘車MCVだ。

政経中核師団へと改編された。

しかしながら、大規模戦争が生起する可能性が減じたこともあり、師団を旅団へと縮小していく流れとなった。その代わりに混成団を旅団へと拡大するといった事も行うが、全体的にみれば、削減傾向となった。こうした陸自組織改革は2010年までに行われていった。

この時から、『基盤的防衛力』に代わり、『動的防衛力』へと基本戦術はシフトする。必要とされる場所に、その都度増援を送れるように、機動展開能力を高めていく考えだ。その一つの象徴として始まったのが『南方転地演習』である。これまでの『北方機動演習』だけでなく、今度は北部方面隊や東北方面隊が、対テロを目的として、首都圏へと展開する訓練も行われるようになった。そこで、『北方機動演習』と『南方転地演習』は、『共同転地演習』としてまとめられることになった。

2008年頃から新たな脅威となったのが中国である。日本南西諸島部が中国に奪われるかもしれない危機に際し、西部方面隊を増強する戦術が考えられた。その一つの形が、先述した西部方面普通科連隊の新設であった。また、これまで基本的に北海道を出る事がなかった各部隊も『共同転地演習』として、九州・沖縄地方へ展開する訓練が行われるようになった。

このように、脅威の移り変わりに合わせて、日本列島の展開能力を高めてきた。さらに効率良く部隊を動かすために、陸海空自衛隊が統合運用する事になった。これまで、陸自部隊が海自の輸送艦や空自の輸送機で展開する訓練は行われてきた。今後はそれを一つの統合自衛隊として行っていく。それが『統合機動防衛力』だ。

南西諸島部にある無数の島々。有人無人のこうした島に敵が侵攻する事態はなんとしても防がなくてはいけない。これまで『防衛空白地帯』とすら言われていた。そこで、2016年に与那国駐屯地（沖縄県）を開庁。沿岸監視部隊を置いた。今後は宮古島、石垣島などにも駐屯地が作られる計画だ。しかし、すべての島に部隊を常駐させておくことは不可能。そこで、これまで培ってきた機動能力の高さを活かしていく。

敵が侵攻する前に、小規模な先遣部隊を送る。その後、輸送艦や輸送機にて連隊規模の即応機動力を投入。以降随時増援していく流れとなる。

そこで、速やかに機動展開する部隊として、2018年に即応機動部隊が創設される事になった。この部隊は、機動力重視のコンパクト戦闘団だ。目玉装備となるのが、16式機動戦闘車MCVだ。機動力を重視しつつも戦



水陸機動団本部は、西部方面普通科連隊のあった相浦駐屯地（長崎県）に置かれることに。



水陸機動団の機動展開をサポートするMV-22Bオスプレイ。2019年から配備される予定だ。

# 日本・近未来 拳銃携帯 許可時代

## EPISODE 0

KEN NOZAWA WROTE: SCIENCE FICTION OF JAPANESE NEAR FUTURE

202x年——。

過去には世界的に治安のよさが知れ渡っていた日本だったが、それも“今は昔”と言うしかない。数年前に『一般の民間人にも拳銃携帯を認める』という法律が国会を通り、今や何万人もの、いや何十万人かもしれないが、バスや電車で席を隣にする普通の会社員や主婦が、そして年配の老人たちが、持ち歩くバッグの中にもしくは懐に拳銃を忍ばせている、という時代だ。

なぜ、そんなことになってしまったのか？

どうして、そんな日本になってしまったのか？

直接的な原因は、日本人なら忘れることのできない『あの事件』が引鉄だったと誰もが苦々しく訴えるはずだが、より遡っていくと、全ての始まりは2017年、いや、2018年にすでに発生していた。

2018年——。世界的にテロ事件が多発した年だった。

その前年の2017年の7月。数年間に渡り、たびたび大きなニュースとなっていたラムイス過激派組織は、彼らが最大拠点としてきた北部ルスモ中心部にあるメリ・モスクを追われ、事実上の壊滅状態となった。それを受けラクイのディアバ首相は『過激派組織による偽りの国家は終わった』と宣言もした。

過激派組織は日本人を含む世界中のジャーナリストを人質に取っての身代金や石油の裏取引で得た莫大な金を活動資金として勢力を伸ばしてきたものの、国連軍による継続的な攻撃が功を奏し、ついには活動拠点を失った。『2017年』

は世界中の人々が安堵した年だったと思われ、

——が、もう一つの実事がある。

ラクイとシアリを中心に活動していた過激派組織は姿を消したものの、時を同じくしてファリビンのミンナダオ島にて、過激派組織に忠誠を誓う組織の活動が確認されたのだ。さらに詳しく調べていくと、忠誠を誓う組織の存在はファリビンのみならずアジア圏全体に飛び火していることが判明した。残念なことに、そこには日本も含まれていた

皮肉なもので『安全』が魅力の一つであった日本は、見方を変えれば過激派組織にとってはこの上ない理想の地でもあった。それというのも、長年、平和である

舞台は今から少し先の日本。

2018年に起こったある事件を契機に、

我が国における銃と市民の関係は

大きな変化を遂げていた……。

CCW特集でも大反響を呼んだ、

近未来予測小説。第2弾。

ことが当然と信じられてきた日本にとって、日本人にとって、どんな小さなテロ事件でさえ国民を震え上がらせるには充分過ぎたからだ。その結果『日本という国は金になる』と過激派組織が判断してしまった。

過激派組織の活動に便乗する模倣犯もあつたはずだが、いったん『与し易し』と見下された日本（政府）は、大小さまざまなテロ行為が全国に発生することで、億単位の身代金を毎週のように奪われていった。2018年までの日本政府は外国の過激派組織が日本国内でテロ活動を行うことを想定しておらず、つまりは危機管理も探っていないことになり、子供だましのブラフでさえ不意打ちとなって国民を大混乱させたことも状況を悪化させた。

繰り返しになるが結果的に、過激派組織に身代金を支払い続ける……という図式ができ上がってしまった。彼らから見れば日本も日本政府も『カモ』でしかない。

さらにもう一つ付け加えるならば、未来から振り返ると、2017年と'18年は日本にとっての転換期でもあつた。

2020年の東京オリンピックを機会に観光立国を目指していった日本政府が、海外から多くの観光客を招き入れようとビザの発給を簡略化、もしくは廃止したことで、'10年代の後半から'20年代の前半、日本を訪れる外国人の数は、毎年、10～20%という伸び率で急増していた。彼らの中には『招かれざる客』も『危険分子』も含まれていた。

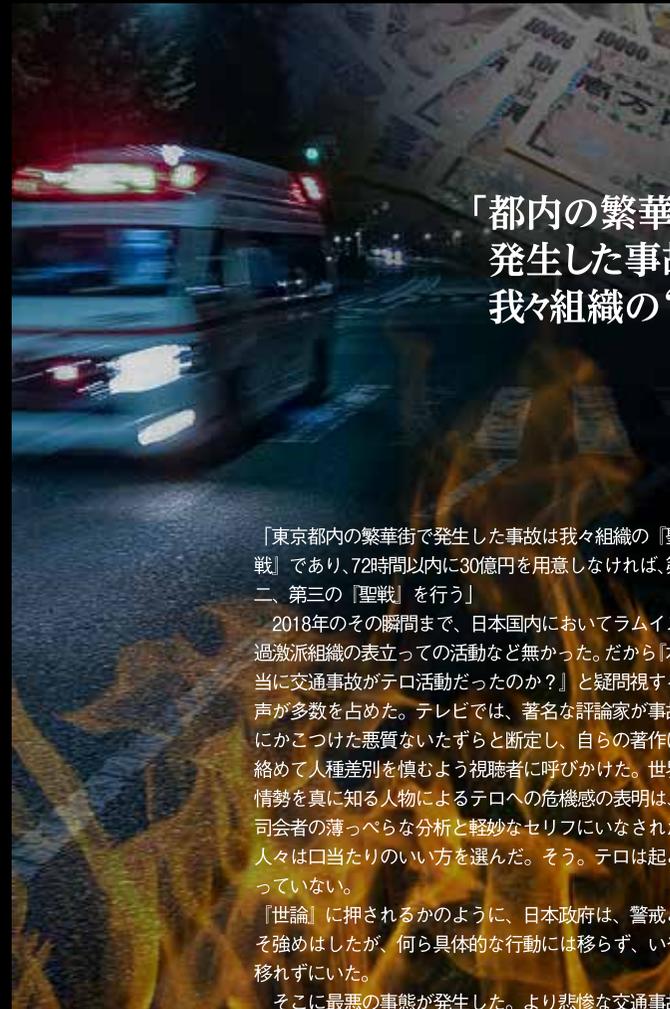
つまりは『観光立国を目指す』という点においては成功したものの、余りにもタイミングが悪かった。失った『平和な日々』という対価は大きすぎた。

この成り行きを間違いなく確認してもらうためにも、重複する部分もあるが、ここで話を2018年に起こった最初の事件、テロ事件に移したい。

2018年5月の連休中、東京都内の繁華街において大きな交通事故が発生した。大型車が信号を無視し、数十名もの通行人に死傷者を出したのだ。頭から血を流して倒れている小さな子供を、その母親が、必死に名前を叫びながら抱きかかえた。周りの男たちの怒号に

も似た「救急車っ！ 救急車っ！」という声がつい先ほどまで穏やかだった初夏の空気にヒビを入れた。その際には、脚が不自然な方向に曲がり、力任せに砕かれた白い骨が飛び出している男性の姿があつた。意識の有無は遠目には判断できない。

その時点では、事故が故意だったのか偶然だったのか判別できなかった。大型車の運転手は、警察官が現場へ急行したときにはすでに姿を消していた。さらに車両は盗難車だった。運転手を緊急手配としたすぐ後に、過激派組織を名乗るものからの声明がインターネット上の動画サイトに発表された。



### 「都内の繁華街で発生した事故は我々組織の“聖戦”だ」

「東京都内の繁華街で発生した事故は我々組織の『聖戦』であり、72時間以内に30億円を用意しなければ、第二、第三の『聖戦』を行う」

2018年のその瞬間まで、日本国内においてラムイス過激派組織の表立っての活動など無かった。だから「本当に交通事故がテロ活動だったのか？」と疑問視する声が多数を占めた。テレビでは、著名な評論家が事故にかこつけた悪質なはずりと断定し、自らの著作に絡めて人種差別を慎むよう視聴者に呼びかけた。世界情勢を真に知る人物によるテロへの危機感の表明は、司会者の薄っぺらな分析と軽妙なセリフにいなされた。人々は口当たりのいい方を選んだ。そう。テロは起こっていない。

『世論』に押されるかのように、日本政府は、警戒こそ強めはしたが、何ら具体的な行動には移らず、いや、移れずにいた。

そこに最悪の事態が発生した。より悲惨な交通事故が大阪府の梅田でも起こってしまったのだ。

運悪く……。いや、過激派組織からすれば狙っての犯行だろうが、社会科見学で街を訪れていた小学生の団体にガソリンを積んだ軽トラックが突っ込み、飛び出してきた運転手が、全身にガソリンを被った多くの小学生に放火し、消え去った。

もう疑問の余地はなかった。瞬時に日本中がパニックとなった。

日本政府はすぐさま、「日本国民の安全を最優先する」と公式発表、身代金はいくらでも支払うと宣言した。先述している通り、その時点で、世界中の過激派組織にとって日本は『カモ』となった。だが、日本政府

も直ぐに対抗策を練っていった。

ラムイス過激派組織のテロ活動、もしくは模倣犯による事件が全国で多発するようになると、国会でも特別法の施行が必要だといった議論がなされた。ただ、想定外のテロ活動に動転してか、内容はお粗末過ぎた。

●海外からの観光客を禁止する

●国民の外出を制限する

●外国人の団体活動を制限する

——並の思考が残っていれば、口にするはずのないような意見が国会で飛び交った。

それと並行し、治安維持は警察庁の仕事のはず、と縦割りの話を進めようとしたが、警察庁からは『発生した事件に対する対処、活動はできるが、事件が発生する前に国民を守るという組織にはなっていない』という反論がでた。さらに『少なくとも、全国のどの場所で、いつ、テロ行為が行われるのかが分からない以上、手の打ちようが無い』と説明を加えた。

そこで、自衛隊から自衛隊の仕事だろうと矛先が変わると、今度は防衛省が「自衛隊は国内でのテロ活動に対応するための組織ではない」と反論。「我々も同じく、全国各地で突発的に発生する事件に対抗する仕組みはない」と続けた。

では、どうすればよいのか？

ここで、非現実的ではあるものの、可能性のある一つの案として新たな自衛組織を発足させるのはどうかという声が挙がった。

新しい自衛組織？

意見としては出しやすいが具体的な形は思い浮かばない。そもそも、警察庁でも防衛省でも『難しい』という判断だ。それを泥鰌的に新しい組織と言われても、簡単に妙案が浮かぶはずが無い。それに、下手に過激派組織を刺激するのは得策ではないという意見も根強い。侃侃諤諤と意見を戦わせること3ヵ月間。急を要する状況下では長すぎたが、それでも日本政府としては素早い対応だったと言える。

政府は、最終的にテロ対策として新しい自衛組織の発足の決定を下した。

「ここで立ち上がらないと永遠に身代金を支払い続けることになり、それは金銭の問題だけでなく、日本人としての尊厳に関わる」

といった声と想いが国民から湧き上がり、政府の背中を押しての決定であった。

新組織のあらまし、基本条件として、国民に関係しそうなものは下記の3つだろうか。

- 1: 火器を携帯した人員を公表なく全国に配置する
  - 2: 新組織の人員は、元・警察官、元・自衛官、またはそれに類するもののみとする
  - 3: 新組織の人員は、65歳までの健康なもののみとする
- もちろんテロ対策として作られた新組織（後のテロ対策庁）に関する情報は詳しく公開されたが、実は、その情報のどこまでが事実で、どの部分が非事実なのかは分からない。要はパニック状態に陥っている国民に安心感を取り戻すための情報公開であり、かつ、過激派組織への抑止力が日本政府の狙いでもあつた。日本政府には珍しく「非人道的な組織に対して、テロ対策

世界で一番有名なアサルトライフルが  
次世代電動ガンの最新モデルとして登場!!

次世代電動ガン

# AK47



アルミダイキャスト製のフレームは、マットな  
仕上げでズシリと重い。スタンダード電動ガンと  
比べると重量はUPしたが、バランスは良い。

トイガン・レポート 特別編  
**TOYGUNS**  
REPORT SPECIAL

# GM7.5 M1911A1 GOVERNMENT CUSTOM



## GM7.5/M1911A1 ガバメント・カスタム

- 全長：約218mm
- 重量：約670g
- 作動方式：ダブルヘッド・オープンデネーターブローバック  
(7mm BLK用M.G.CAP使用)
- 使用カートリッジ：ポリマーオープンカートリッジ/  
アルミオープンカートリッジ
- 価格：3万5,424円
- 絶賛発売中!!



スライド右側にM1911の刻印を入れたシリアルナンバー711423は超少数限定生産品。フレーム右側にM1911の刻印、シリアルナンバー712350は超・超少数限定モデルとなっている。

## タニコバGM7.5をベースにした、 M1911系プレミアム・カスタム

モデルガン・デザイナーの雄、小林太三さんのブランド「タニコバ」と、カスタムと直販を中心にした「ミュール」がコラボレーションしたガバメント、それが、“GM7.5ミュール・カスタム”シリーズだ。すでに、“シリーズ70ラージ刻印”“シリーズ80ミュール・カスタム”が登場し、さらにミリタリー・タイプの“GM7.5/M1911A1ガバメント・カスタム”も市場に供給されている。

これら3機種の内、シリーズ70と80は、GM7.5の刻印を入れ直し、ミュール・オリジナルのココボロ・ウッド製グリップをセットした少数限定の直販カスタム、M1911A1は刻印を刻み、ミュール製作の外装パーツ、ミュール・オリジナルのココボロ・ウッド製グリップなどをセットしたカスタム・モデルだ。M1911A1が他の2機種と異なるのは、ある程度数を生産する流通モデルとしている点だ。従って、M1911A1は、市場での購入が可能。シリーズ70、シリーズ80も、若干の在庫があるそ



うなので、購入したいファンは、ミュールに問い合わせよう。  
タイムブルーフされたブローバックシス

グリップは、希少な高級天然木ココボロを素材にしたミュール・オリジナルのフルチェッカー・タイプ。



タニコバから無刻印のシリーズ70を仕入れ、彫刻機でミリタリー・タイプの刻印を刻んだM1911A1ミュール・カスタム。フロント・サイトにシリーズ70の面影が残されている。

## GM7.5 SERIES 70 LARGE 刻印

### GM7.5/シリーズ70 ラージ刻印

- 全長：約218mm
- 重量：約645g
- 作動方式：イージーCPデトネーターブローバック  
(7mm BLK用M.G.CAP使用)
- 使用カートリッジ：ポリマーイージーCPカートリッ  
ジ/アルミイージーCPカートリッジ
- MULEココボロ・ウッド・グリップ付属
- 価格：3万7,584円 (カートリッジ別)
- 絶賛発売中!!



シリーズ70のグリップに埋め込まれたランバンコルトのメダリオン。



## GM7.5 SERIES 80 MULE CUSTOM

### GM7.5/シリーズ80ミュ ール・カスタム

- 全長：約218mm
- 重量：約670g
- 作動方式：ダブルヘッド・オープンデネーター  
ブローバック (7mm BLK用M.G.CAP使用)
- 使用カートリッジ：ポリマーオープンカートリッジ/  
アルミオープンカートリッジ
- MULEココボロ・ウッド・グリップ付属
- 価格：3万5,424円 (カートリッジ別)
- 絶賛発売中!!



シリーズ80のメダリオンは、ハー  
フ・ランバンコルトを採用。



ミリタリー・タイプの外装パーツは、全てミュ  
ールが製作した新規パーツを組み込んだる。

テムに、さらに磨きかけたタニコバ  
GM7.5。その快適な作動と耐久性、コレク  
ションとしての高いクオリティと付加価値  
を備えた、GM7.5ミュール・カスタム。今  
後も様々なカスタム製作が予定されてい  
ることなので、ガバメント・ファンは請  
うご期待だ!!

※撮影用モデルはプロトタイプのため、量産品とは仕様が異なる場合があります。

# V10 HI-CAPACITY

〈WA 2018福袋モデル〉



トイガン・レポート 特選編  
TOY GUNS  
REPORT SPECIAL



V10ハイキャパシティ  
〈WA 2018福袋モデル〉

- 全長：約183mm
- 銃身長：約76mm
- 重量：約885g
- 装弾数：26+1発
- 価格：4万2,120円
- 絶賛発売中!!

## 強大なファイアー・パワーを秘めたコンパクト.45

ガバメント系カスタムに、強いこだわりを持つウエスタン アームズ (以下: WA) が、人気のコンパクト.45、「V10ウルトラ・コンパクト」をベースに、独自の構想を活かしたコンシールド・ファイティング・モデル、「V10ハイキャパシティ」を発売する。スプリングフィールドアーモリー (以下: SA) のV10ウルトラ・コンパクトは、1990年代半ばに一世を風靡したコンパクト・オート。スライドに開けられた2カ所のスリットと、バレルに開けられた左右計10個のマグナ・ポートを特長とする、精度の高いカスタムガンだ。WAでは、早くからこのV10をモデルアップし、現在ではチャンバーとアウター・バレルを一体の金属製として、実銃の迫力とメカニカルなムードを余すところなく再現。ガバメント・ファンの熱い支持を獲得している。

今回のハイキャパシティ・カスタムは、このV10スライドに、S.V.インフィニティ・

シリーズのコンパクト・グリップ、コンパクト・シャーシを組み合わせたコンシールド・モデル。大容量と多弾数を、携帯しやすいサイズにまとめた究極のストリートファイト・カスタムだ。

V10をデザインしたSAでも、その完成直後に、パラオーディナンス・タイプのハイキャパシティ・フレームを組み合わせた、バリエーション・モデルを追加していた。しかし、その後なぜかV10自体が作られなくなり、それに伴ってハイキャパシティ・モデルも姿を消す。急速にシェアを伸ばし始めたポリマーフレーム・オートに対して、削り出しを中心としていた当時のSA製M1911は、コスト面では対抗できなかったのだろう。

実銃の世界では、市場在庫も底をついたV10だが、日本の銃器ファンは、それをWAのマグナ・モデルで手にすることができる。しかも、今回はそのハイキャパシティ・カ



スライド・サイズに合わせて、コンパクトなグリップ・フレームと、ショート・サイズのマガジンを装備。パラオスの取れたコンパクト.45にアレンジされている。

MISSION 11  
 ぴっちょ、ゲストに呼ばれる!!  
 @Battle Spot



文:戦え!!ぴっちょりーな☆ 写真:世界のTK  
 協力:Battle Spot(バトルスポット) <http://www.battle-spot.com>  
 千葉県中央区浜野町1025-240 CROSPPO千葉浜野店2F ☎043-308-3052

1年が過ぎるのは、あっという間ですね♡  
 この号が出る頃にはクリスマスも過ぎ、  
 新年の松飾りがちらほらみられる頃  
 近未来の私、ぴっちょりーな☆は、大掃除できているのか?  
 読者の皆さんも大掃除できてますか?  
 片付けも掃除も大嫌いなぴっちょりーな☆ですが  
 この時期だけは頑張って掃除します(願望!)  
 さて、今回は!  
 “バトルスポット3rd Anniversary”イベントに  
 世界のTK氏とゲスト出演してきたよ♡

第11回 突撃!!  
 ぴっちょりーな☆  
 ~ミリ女子世界征服への道~

CQBインドアサバゲを堪能!

2017年11月26日(日)!  
 千葉県にあるサバイバルゲームフィールドのバトルスポットさんに突撃!! してまいりました! この日は、バトルスポットさんの3周年の記念イベント。なんと! ありがたいことに! ゲスト出演(with TK)させて頂きました!  
 しかも! 当日は満員御礼! 常連さんのもとより、初めての方も含め、沢山の方が遊びに来て下さいました!  
 ちなみに、バトルスポットはインド

アフィールド! なので雨女のぴっちょりーな☆も安心なのです。  
 フィールドはふたつあります。ひとつは誰も知らない魔境に迷い込んだような感覚になれる「遺跡フィールド」。  
 もうひとつは怪しげな秘密施設やミリタリービークルなどなど、フォトジェニックなスポット満載な「市街フィールド」。  
 「モンブランとティラミスがあるけど、どっちが食べたい?」と聞かれたら「両方!」と迷いなく答える、私・ぴっちょ。どちらでも好きなフィールドで遊べるバトルスポットさんは、私にとっ

て、一粒で二度美味しい! 最高のフィールドです!  
 監修は、ぴっちょやコンバットマガジンの記事を載せていただいたりもしているハイパー道楽さん! 初心者から結構な玄人さんまで、楽しめる設計になっています。あと、マガジンウォーマーも置いてあるので、冬でもガスハンドガンでストレスなく楽しめるのはアツいです!  
 もちろん! ゲームにも参加しました!  
 交戦距離が近めだからスリル満点! でもプライベートでも来たことがあるから、厚着をして、グローブ

インドアフィールドBattle Spotは見所たくさん!



バトルスポットさんは、千葉市中央区のゲームパーク・クロスボ内にあるよ。館内はボーリング場にカラオケボックス、シャワールームなど、もちろんカフェスポットもあって、1日遊べちゃいます!



しまったー! あれ忘れたー! というオッチョコチョイさんも安心! 品揃えがすごい! 銃も売ってたよ。



ヒットされても中の様子が見れちゃうモニターが!



開催されたファッションフォトコンテスト「う〜ん。誰にしようかな?」



交戦距離が比較的近いフィールドなので耳カバーやグローブ、帽子など、しっかり対策すれば快適に遊べるよ♡



サバゲーといえばカレー。ここんちは激辛カレーがおすすめ! 辛いのが好き! という方には堪らない一品!

やイヤマフ、もちろんフェイスガードをばっちりしていったので、あんまり痛い思いをせず楽しめました。イベントのMCをさせていただく時にはできるだけ言うようにしているんですけど、特に女子は、目だけでなく、鼻や口のガードは意識した方がより楽しく遊べると思います!

ちなみにぴっちょは、優しい常連さんに「オススメポイント」を教えてもらって、ヒットを取らせていただいたりしました(笑)。

催し物盛りだくさん!

さて! 今回のイベントは3周年記念イベントということで! おしゃれサバゲーマーを一般投票で選ぶ「フォトコンテンツ」や、希望者が参加できる、お昼時間を利用した「シューティング対決」! そして豪華景品をかけた「BINGO大会」など! 催し物が盛りだくさんでした。  
 シューティング対決は2つのチームに分かれ、的を先に撃ちきった方が勝

利というルール。アイスクリームをかけた勝負♡ これは萌えるぞおお!  
 私は射撃のバイセンである世界のTKさんとの師弟対決になりました!  
 撃ち始めはぴっちょりーな☆が優勢!

TK氏は、拳銃の調子が悪いのかなかあたらず…。  
 「ふふふ、師匠越えも間近?」  
 なんて、ここで一気に引き離しにかかる私・ぴっちょ!  
 ところが、ここで世界のTKさん、だんだん当ててまいりました。  
 「ぴっちょ〜ゴメンね、本気出しちゃうよ」

TK氏、大人げない…。でも、射撃うまい。正確で、恐ろしい速さで追い上げてきて、いつの間にか抜かれて…。完敗でした(泣)。  
 くううう悔しいiiiiiiii…。  
 でも! 転んでもタダで起きない! 「師匠を越えるには、まだまだ時間がかかりそうです♡」  
 なんてしおらしくうなだれたりしな

がら、こっそりと世界のTK氏の「勝利のアイスクリーム」をいただいちゃいました(ここだけの話だよ)?!  
 「フォトコンテンツ」はぴっちょも一所懸命選びました。

イチオシは「ホホワイトウルフ」のコスプレをしていた方! カッコかわいいし、水色の銃身のハンドガンが、ものすごくおしゃれ! 私も赤いP-90を持っているから、並んだら、いいコントラストになるな♡なんて想像しながら楽しくなっちゃいました! と思ったら、エントリーされていなかった事が判明!! 残念♡

もちろん、優勝した交通機動隊コスプレの方もステキでした! 賞品のぴっちょりーなグッズ、喜んでくださったのも嬉しかった! おめでとうございます!  
 賞品もたくさんで大盛り上がりだった「BINGO大会」まで、息つく間もないくらいの盛りだくさんで、本当に楽しかった!  
 イベントには、神戸や関西方面か